



街路樹の落ち葉が歩道や車道に舞い散る季節になりました。訪問に向かう車の中からみえる景色の変化で、季節の移りかわりを感じる毎日です。日ごとに寒さが増し、風邪やインフルエンザの流行が気になる時期になりました。師走に向けて、利用者様やご家族の方が安心して新年を迎えることができるようサポートしていきたいと思えます。

訪問看護では、看護師が個々で1日に4件ほど訪問に出掛けています。必要に応じて、2人で訪問することもあります。利用者様の状態は、部署会議や部署内での症例検討会で情報の共有や検討を行っています。

訪問以外には、様々な研修や外部の会議に参加しています。個々が目標を持ち、それに向けてのスキルアップに取り組んでいます。研修で学んだことも部署会議の場で報告することで、ステーション全体で共有でき、互いに高め合うことが出来ているように思います。

今回は在宅での栄養管理と他職種連携についてお話ししたいと思います。

まず、はじめに食事をする意義です。

- ① 栄養摂取
- ② 口腔内をきれいにする
- ③ 機能低下を防ぐ(使わないと退化する)
- ④ 脳への刺激
- ⑤ 体力や気力の向上
- ⑥ 行動範囲の拡大とコミュニケーションの改善
- ⑦ 楽しみ

栄養管理には、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士・歯科医師様々な職種が関わり評価していく必要があります。

しかし、在宅では、病院のように全ての職種が関わるのが困難です。したがって、中心的役割を果たすのが訪問看護師となってきます。普段の食事や栄養状況を把握します。食事・点滴・経管栄養カロリーはどれくらいなのか？食事の摂取量はどのくらいなのか？

食事摂取量も「食べている」との情報だけでは、量が少なくても食べていると捉えてしまい、栄養が十分に摂れていることは分かりません。そのため、情報はご家族からだけではなく、利用しているヘルパーさんが食事介助をしている状況など、ケアマネージャさんを通して把握します。在宅にいても、他職種からの情報をもとに栄養評価し、必要となれば、医師や専門職の力を借りることも大事です。



現場での出来事

Aさん：進行性の神経難病。嚥下機能の低下あり。好物の肉やお菓子(煎餅・ケーキ類・チョコレート等)の口腔内に残っていることが多くなってきていた。

Aさんは“食事をしたい”という思いが強くありましたが、食事摂取時間の延長や口腔内に食べ物停滞することが増え、思うように食事ができない状況となっていました。疾患によって今後さらに嚥下機能が低下することが予測されていました。

Aさんの思いに添えるよう、今のAさんの嚥下機能に応じた、誤嚥のリスクの少ない食事内容や食事形態、薬の内服方法、食事介助方法等を指導したいと考えました。しかし看護師では今の嚥下機能の評価や具体的な指導が出来ないため、言語聴覚士に相談することとしました。Aさんとご家族に言語聴覚士の訪問を提案し、訪問を開始することとしました。

言語聴覚士の評価は、固形物の摂取は難しい状況で、茶わん蒸しやゼリーやプリンなどの形態の物が適している。また食事の際の姿勢はベッド40度で摂取することが誤嚥のリスクが少ないとの結果でした。

言語聴覚士からご家族へ評価内容を伝え、食事形態・食事時の姿勢を指導したところ、食事内容はプリン様の形態に変更するとともに適した姿勢で摂取するようになりました。ご家族からはむせることが減り、訪問してもらえるようになり良かったとの言葉がきかれていました。食事介助に介入しているヘルパーさんにもご家族から情報提供することで、同じ認識・方法で食事介助することができるようになりました。しかし、Aさんは、プリン様のものだけでは飽きてしまい食べたいものが食べられないため、複雑な心境がありました。ご家族やヘルパーさんへ「固形物も食べたい。」と時々お願いし食べることもありました。家族は誤嚥のリスクを承知した上で、Aさんの思いに沿うこともあるのが現状です。

言語聴覚士の訪問の中では、嚥下機能訓練だけでなく、発声訓練も実施しています。発声しづらくなりコミュニケーションが取りにくくなっていったため、Aさんの意向も確認しながら、今後はコミュニケーションボードの使用等も考えています。

多職種で関わることで、Aさんの“思い”を様々な方面から支援できているのではと思います。



左：片岡 中央：富田 右：河口



内藤

スタッフ紹介

富田（看護師） 6月から仲間入りしました。

まだまだ勉強することはばかりですが、利用者様とご家族の方の手助けができるよう頑張ります。宜しくお願いします。

河口（理学療法士） 6月から仲間入りしました。

病棟より異動となりました。訪問の領域は初めてなので、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、宜しくお願いします。

片岡（作業療法士） 7月から仲間入りしました。

在宅でのリハビリは初めてですが、利用者様やご家族の方が笑顔で暮らして頂けるよう心掛けていきたいと思っています。

内藤（看護師） 9月から仲間入りしました。

まだまだ分からない事もありますが、笑顔を忘れず利用者様に寄り添った看護ができるよう頑張ります。